

SCHOOL OF MATERIALS SCIENCE

激動の時代、求めるものはここにある。



国立大学法人
北陸先端科学技術大学院大学
マテリアルサイエンス系

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1

入学情報についてのお問い合わせ（学生募集係）
TEL：0761-51-1966 E-mail：nyugaku@ml.jaist.ac.jp

<https://www.jaist.ac.jp/ms/>



[YouTube] <https://www.youtube.com/JAISTClips>

[Twitter] <https://twitter.com/JaistMs>

北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス系
社会人博士後期課程プログラム

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY
1990

北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス系 社会人後期課程のススメ

Features of the program

今、世界は激動の時代にあり、技術革新も加速度的に進んでいます。
このプログラムは、本学独自のシステムを活かして、社会人が土台となる基礎を見直し、
専門をアップデートする機会を提供するために設けられました。その特長は以下の通りです。

Point 1

企業の研究者あるいは技術者に、自らの専門分野を掘り下げ、また広げる機会を提供します。学会での口頭発表・専門誌への論文発表・英語によるサイエンスコミュニケーションの指導が受けられます。

Point 2

マテリアルサイエンス系の先端科目などを受講することにより、最先端の研究内容や学術的知見を基礎に立ち返って理解することができます。

Point 3

世界最新鋭の研究設備の活用と、遠隔教育システムの併用を通じて、指導教員および関連する分野の教員による充実した研究指導が受けられます。

Point 4

優れた研究成果をあげた場合には、最短2年の短期修了が可能となります。学習時間が十分確保できない事情がある場合は、4年を最長期間として履修する長期履修も選択できます。

JAISTマテリアルサイエンス系を選ぶ6つの理由

理由1 充実した最先端研究設備

最先端の大型研究機器(800MHz-NMR、TEM、収差補正STEM、SQUID、GFIS-FIB、FT-ICR MS、XPSなど)は、技術職員と教員によって保守・管理されています。学生は、所属研究室の実験装置に加え、200台を超えるこれらの共通実験装置を日常的に用いて研究活動を行っています。所有している最先端研究設備は、他大学や企業の方に公開し、研究開発をサポート・活性化する事業にも参加しています。

理由3 注目される研究論文

教員一人当たりの論文発表数

19.00件 国立大 1位 / 全国 3位※1 国際共著論文比率: 41.1%
19.70件 理工系大学で世界 8位※2 国立大 3位 / 全国 5位※1

教員の高いアクティビティにより、毎年多くの研究成果が論文発表されています。学生が取り組む研究成果が国際学術論文として発表され、次世代の科学技術の礎となっています。

理由5 多彩な教員

物理・化学・バイオのそれぞれの分野で世界の第一線で活躍している教員が、未来材料創成を担う人材を組織的に育成しています。若い教員や外国人教員の比率も高く、学生のチャレンジ精神とグローバルな視点を共に養える環境になっています。

37歳以下の若手教員	外国人教員	企業出身の教員
29.0%	19.4%	11.3%

理由2 世界レベルの研究拠点

サイレントボイスセンシング国際研究拠点(超微細加工とデバイスの拓く夢の世界)、サステナブルマテリアル国際研究拠点(天然由来マテリアルで人類の未来を描く)、マテリアルズインフォマティクス国際研究拠点(データが拓く新時代の材料科学)、超越バイオ医学研究拠点(機能性マテリアルを活用した革新的医療技術の創出)などを中核に、世界の最先端研究を組織的に遂行しています。

理由4 多数の重要プロジェクト

科学研究費の採択件数 研究者当たり 国立大 8位 0.61件※3 企業との共同研究 研究者当たりの研究費
資金獲得力 外部資金の獲得度合い 評価 A+ 最高評価※4 国立大 4位 / 全国 7位※5

科研費の他、科学技術振興機構(JST)、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、環境再生保全機構(ERCA)など多数の大型プロジェクトが採択されています。

理由6 ダイバーシティに富む環境

JAISTは学部を持たないため、学生の出身はさまざまです。社会人経験者、企業からの派遣研究員も数多く在籍しています。外国人留学生の比率は42%(令和2年5月1日現在)と全国トップクラスで、多種多様な国々の学生と触れ合い、国際感覚を身につけることができます。また、海外の協定校との連携プログラムによって、海外留学の機会もあります。

Contents of the program

[入学者選抜方法]

志願者はあらかじめ希望指導教員に連絡をとり、研究室受け入れの内諾を得てください。選抜試験は、「一般選抜」を受験していただきます。

[入学者選抜方法]

本学の入学者選抜試験では、出願書類を参考にしつつ、面接結果を重視しています。試験は、面接(研究概要、研究計画等に関する口頭発表及び口頭試問)により行い、試験時間は口頭発表20分、口頭試問30分の計50分です。面接試験の結果及び提出書類により総合判定し、合格者を決定します。

社会人教育プログラムの内容

01 単位は、博士論文6単位、副テーマ研究2単位、必修科目「人間力・創出力イノベーション論」1単位、及び先端科目又は発展科目11単位以上、合わせて20単位以上を修得する必要があります。ただし、先端科目は4単位以上修得する必要があります。

02 他大学院の博士前期(修士)課程で修得した専門科目について、最大8単位まで、本学にて修得した科目として読み替えを認めることがあります。

03 博士後期課程を修了するためには、3年以上在学することが必要です。ただし、優れた研究業績を上げた教授会で認められた場合には、2年あるいは2年半などの在学での短期修了が可能となります。

04 入学から修了までの標準修業年限は、博士後期課程にあっては3年と定められていますが、職業を有する等の理由で、学修時間が十分確保できない事情がある場合は、4年を最長期間として履修する長期履修制度に申請することができます。長期履修学生の授業料は、長期履修が認められた在学期間で案分します。

集中講義

博士後期課程の学生を主な対象とした講義群(学内分類で「M6xx」、「M4xx」)は、毎年その一部を1週間の集中講義として開講します。なお、「M6xx」の講義は全て英語で行われます。

[選抜時期・場所]

一般選抜は年に複数回実施していますので、ご都合があう時期の試験区分に出願してください。試験は、試験区分に対応した試験期日のうち、本学が指定した1日に本学(石川キャンパス)で行います。

[入学時期]

博士後期課程の入学時期は10月と4月の年2回です。

詳細は本学ホームページの学生募集要項に記載されています。
<https://www.jaist.ac.jp/admissions/>

主テーマ研究

01 企業在職の社会人学生に対しては、企業における実験設備の使用を主たる理由として、企業内での研究活動を課程における研究の一部分として含めることを認めます。

02 指導教員は遠隔教育システム等の手段により、学生との連絡を密に行い、研究指導を行ないます。集中講義の期間や夏期に本学に連続して1週間程度滞在している間に、指導教員および関連する分野の教員による研究指導を集中的に受けることができます。

副テーマ研究

副テーマの内容は、所属先の業務内容に関連した研究テーマを設定するなど、自由に設定することが可能です。企業での研究内容または主テーマ研究の内容が社会にどのように役立つかを調べることも副テーマとして選択できます。

滞在施設

本学滞在中には、大学から徒歩5分の「石川ハイテク交流センター・宿泊施設」が利用できます。



石川ハイテク交流センター・宿泊施設